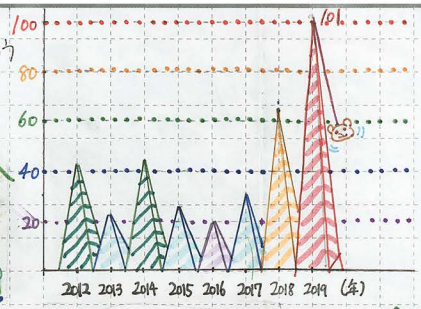
新聞 ヒグマと生きる未来 新聞

2022年8月21日
北九条小学校5年
三島 縁

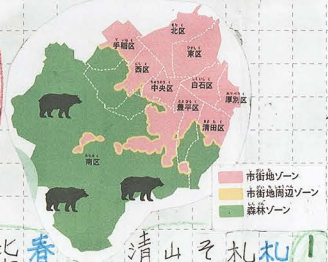
ヒグマについて

嗅覚 人間の 100万倍

昨年6月、ぼくが住んでいる東区の住宅街で熊が出たと知り驚きました。今年も8/17までに札幌市の熊の出没は82件になっています。ぼくの家の裏には冬の間ずっとなのつがいも住んでいました。こんな市街地で野生動物が出てくるなんてどこからやってきたのか不思議です。ヒグマの出没ニュースも毎日のように耳にするので調べてみることにしました。



↑上のグラフを見ると年々出没件数が増えていることがわかります。なぜ出没件数が増加しているのかを調べてみました。



ゾーニング

人とヒグマが会わないためにゾーニングという考え方があります。

ゾーニングとは「場所を分ける」ということです。

1つめ 札幌市は自然と市街地がとなり合っているため

札幌市は約195万人もの人が住む大都会ですぐそばにヒグマやたくさんの動物が住んでいます。山や森林に接した6つの区(中央区、豊平区、清田区、南区、西区、手稲区)でヒグマの出没情報があります。

2つめ 春グマ駆除が廃止されたため

北海道では1969年と1990年にかけてヒグマの積極的な駆除を目的とした「春グマ駆除制度」が施行されていましたが、1991年以後、駆除制度廃止後痕跡発見率が増加し個体数が回復したことがあげられます。(北海道大学、国立環境研究所による翌年モニタリング調査によるヒグマの個体群動態の解明)の文献。また札幌市環境局環境都市推進部環境共生担当課熊対策調整担当係長の清尾崇さんに教えて頂きました。

3つめ 郊外のエサが減少し、クマの生息地が拡大したため

このような事がヒグマの出没の増加の原因として考えられます。

国立科学博物館(日本館にて)

東京都恩賜上野動物園

東園のクマたちの丘にヒグマがいるのですが、この日の東京の気温は36度と暑く、残念ながら姿は見ませんでした。

代わりに…

新しくできた西園パンダのもりエリアでレイレイとシンシンの双子のパンダが見れました。パンダも熊猫と書いて分類はクマ科です。しくさが円山動物園のヒグマと似ていると思いました。かわいい～

SAPPORO エコ・ル 環境広場さっぽろ2022

実際ヒグマに出あったらしたら僕よりかなりでかい!!

するどいが当然大人がする理由になるく!! ヴェロキラプトルのかぎ爪の様!!

ナセネットワークさんの標本が展示されていました。触ってOKなので触れてみるとヒグマの毛はとても固い。

姉です

ネグマはたこうずくりり、赤ちゃんグマもずっくりしてました!!

円山動物園

丁度、午前の食事の時間帯でした。りんごなどのフルーツが水の中に散らばっていたり岩のかげに隠されていてそれをヒグマが探して食べていました。水あびしながらボールで遊ぶ姿は、とてもかわいらしく猛獣という事を忘れてしまいます

ボールでじゃれて水でバシャバシャしています

エゾヒグマ館にある毎日更新されるヒグママップ。自然に近い南区での出没が分かりやすい

この夏ヒグマの事をもっと学びたいと思い市施設に行ってきました。

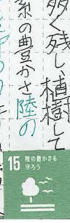
よこはま動物園ズーラシア

動物園には当然どこでもヒグマの展示があると思っていました。この動物園はツキノワグマはいたけれどヒグマはいませんでした。動物が元々生息している場所の木や植物がそのエリアにあり、自然にとけこんだ展示がまるで外国にいるようで動物に優しい環境でした。調べてみるとヒグマが展示されている動物園は日本に15施設のようです。(90施設中)

まとめ

これからヒグマと人が共存するために、人間の住処とヒグマの住処をわかりやすくする工夫が重要だと分かりました。

編集後記



SDGs 公園や環境破壊がないまちづくりを目指し緑地の整備や自然豊かな都市を目指して緑を多く残し植樹して生態系の豊かさを守ろうとする今日はヒグマが人間の生活エリアに入りやすいので、街にヒグマがでてくる河川や緑地のルートの草かりなどヒグマの設置日頃からの対策とヒグマに出遭わないためにぼくたちが努力することでひぐまを共に生きる未来を築くことができる。

心に残ったこと

「答えて下さった札幌市環境局環境都市推進部環境共生担当課熊対策調整担当係長の清尾崇さん、環境広場さっぽろ2022で蜂や熊、生物多様性について教えて下さった手島さん、円山動物園の飼育員さんありがとうございました。